

平成30年度第1回富津市地域公共交通会議 議事録(要旨)

1 会議の名称	平成30年度第1回富津市地域公共交通会議
2 開催日時	平成30年6月25日(月) 午後3時10分～午後4時35分
3 開催場所	富津市役所502・503会議室
4 議題事項	富津市地域公共交通網形成計画に係る2018年度事業計画(案)について
5 出席者名	<p>富津市地域公共交通会議委員(14名) 富津市副市長 小泉 義行 日東交通(株) 代田 憲隆 一般社団法人千葉県タクシー協会 かずさ交通(株) 奥瀬 亮彦 東京湾フェリー(株) 寺元 敏光 富津地区区長会長 鹿島 榮 大佐和地区区長会長 平野 弁一 天羽地区区長会長 斎藤 啓一 国土交通省関東運輸局千葉運輸支局 宮澤 豊 一般社団法人千葉県バス協会専務理事 成田 斉 千葉県君津土木事務所調整課長 榎本 秀典 千葉県富津警察署交通課長 青井 崇 千葉県総合企画部交通計画課副主査 池田 絵里子 君津市企画政策部次長 鈴木 広夫 日本大学理工学部交通システム工学科 教授 藤井 敬宏</p> <p>事務局(6名) 富津市長 高橋 恭市、総務部長 白石 久雄、 総務部次長 秋嶋 隼人、企画課長 坂本 秀則 企画課長補佐 樋口 峰昭、主任主事 赤井 聖</p>
6 公開又は非公開の別	公開・一部公開・非公開
7 公開の理由	富津市情報公開条例第23条第1項に該当
8 傍聴人数	6人(定員20人)
8 所管課	総務部企画課公共交通係 電話 0439-80-1229
9 議事録(議事の要旨)	別紙のとおり

第1回「富津市地域公共交通会議」議事録

発言者	発言内容
小泉会長	<p>1 開会</p> <p>ただ今から平成30年度第1回富津市地域公共交通会議を開始いたします。</p> <p>本日の会議では、本年3月に作成しました富津市地域公共交通網形成計画に基づく2018年度の事業計画(案)をご説明し、議論していただいたうえで、2018年度PDCA、計画、実行、評価、改善のPにあたる事業計画の決定にもって行きたいと考えています。</p> <p>ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>最初に、本日の出席状況の報告等、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>本日の出席状況を報告します。</p> <p>出席者 14名、欠席者 2名です。</p> <p>従いまして、富津市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定により、半数以上のご出席をいただいておりますので、会議が成立していることを報告します。</p> <p>続きまして、会議の公開について説明します。</p> <p>富津市情報公開条例第23条第1項の規定により、本会議では、傍聴者の受入れ及び会議の議事結果を公表します。</p> <p>また、会議録作成のため、録音機の使用をさせていただきますので、ご了承願います。</p>
小泉会長	<p>2 市長挨拶</p> <p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>高橋市長より、ご挨拶をお願いします。</p>
高橋市長	<p>・・・市長挨拶・・・</p>
小泉会長	<p>委員紹介及び署名委員の指名</p> <p>次に、前回会議から委員及び事務局職員の変更がありました。</p> <p>年度当初の会議ですので、お手元の委員名簿の順に、私から自己紹介をしたいと思いますので、委員の皆様よろしくお願い申し上げます。</p> <p>・・・委員自己紹介・・・</p>
小泉会長	<p>新任委員の皆様のご委嘱状については、自席配付とさせていただきましたので、ご了承ください。</p> <p>続いて、事務局の紹介をお願いします。</p> <p>・・・事務局紹介・・・</p>

小泉会長	<p>続きまして、会議録署名委員を指名させていただきます。 成田委員と榎本委員にお願いいたします。</p> <p>3 議題 富津市地域公共交通網形成計画に係る 2018 年度事業計画（案）について</p> <p>次に、次第 3 の議題に入ります。 議題の富津市地域公共交通網形成計画に係る 2018 年度事業計画（案）について、事務局から説明願います。</p>
事務局	<p>議題の 2018 年度事業計画について、説明します。</p> <p>3 月に開催しました前回会議後に、事業の実施主体である交通事業者の皆さまに、今年度の実施事業に関する提案を提出いただき、事務局で取りまとめました。年度当初のご多用のところ、ご協力いただき、ありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局から資料に基づいて説明します。資料の表紙をめくり、目次をご覧ください。</p> <p>資料は、16 事業、19 ページの構成です。</p> <p>説明は、事業 1 から事業 7 まで、事業 8 から事業 13 まで、そして事業 14 から事業 16 までの、3 つに区切って、順次説明します。その 3 つの間でご意見の交換・ご質問等の時間を設けます。</p> <p>それでは、1 ページをご覧ください。</p> <p>ページ構成は、上段に「実施事業名」と「事業概要」、その下に「実施主体」と「実施項目」の 2018 年度からのスケジュールを計画書から、抜粋したものを記載しています。</p> <p>その下に、今年度、実施事業の「趣旨」、「具体的な実施内容」、「来年 3 月までのスケジュール」、「実施に当たってのその他の留意事項等」を記載しています。</p> <p>説明は、時間の関係もありますので、各事業の概要と実施主体、趣旨及び実施内容を中心に説明します。</p> <p>最初に、【事業 1】市民の移動ニーズに対応した路線バスの再編です。事業概要は、商業施設、医療機関等への一部経路変更とバス停の新設検討、次に通院や買い物実態に即したダイヤの見直し、鉄道と路線バスとの接続向上等です。</p> <p>実施主体は、路線バス事業者と富津市で、今年度、実施事業の趣旨は、商業施設、医療機関、駅といった集客力のある目的地との移動を考慮した運行経路の検討・ダイヤの見直しにより、利便性の向上を図るものです。</p> <p>具体的には、集客力のある目的地への日東交通実施の乗降調査での利用動向に基づき、運行計画を検討し作成します。</p>

また、運行計画だけでなく、現状に即した利用者にわかりやすい「バス停名称の見直し」も検討します。

例えば、「湊・富津線」に小久保の「消防署前」バス停がありますが、現在消防署はありません。また、「鹿野山線」に、宝竜寺の「電通富津倶楽部前」などが残ったままとなっています。

2ページをお願いします。

次に、【事業2】高校生の通学実態・ニーズに対応した路線バスの再編です。

事業内容は、通学者の通学経路に対する情報共有と、登下校時間に合ったルート・ダイヤ設定、雨天時の対応等の可能性検討です。

実施主体は、路線バス事業者と富津市、高校で、今年度の実施事業の趣旨は、継続的に高校生の通学実態やニーズを把握し、運行方法の見直しを実施する体制を整備し、ニーズにあった運行の改善実施をするものです。

実施内容は、君津商業高校及び天羽高校の生徒に、7月上旬頃にアンケートを実施し、通学実態に基づく路線バスの大貫駅発着の「富津市役所・君津駅線」と上総湊駅発着「戸面原ダム線」の運行計画を検討し、作成します。

また、市外への通学生徒への対応として、鉄道及び幹線バスへの接続時間を配慮したいと思います。

次に、3ページ、【事業3】JR内房線の利用促進です。

事業内容は、鉄道とバスとの接続改善情報を共有する情報提供等の場の設置検討と、フリー乗車券、駅からハイキングなど企画切符の周知PRや各種イベントの開催等です。

実施主体は、鉄道事業者と富津市で、趣旨は、基幹広域交通であるJR内房線と二次交通との接続改善など、利用者の利便性の向上のため、市内交通事業者間の情報共有等の連携について検討するとともに、各種イベントの実施により、JR内房線の利用者増加を図るものです。

具体的には、千葉県JR複線化等促進期成同盟の事業と連携し、利用者利便性の向上に資する情報共有を検討し、また、内房線沿線のマザー牧場や鋸山などの観光資源活用による利用促進イベントを随時実施します。

次に、4ページをお願いします。【事業4】タクシーの利用促進です。

事業内容は、地域における持続可能なタクシーの利用促進検討、例えば観光タクシーなど新たな需要の獲得です。

実施主体は、富津市とタクシー事業者で、趣旨は、既存タクシー事業の営業形態以外に、新たなタクシー需要の掘り起こしなどにより、利用者増を図り、市内配車の採算性を改善させるために、持続可能なタクシーの活用策を検討します。

市内では、昨年11月から大貫地区で「大佐和タクシー」の開業がありました。今年5月には浜金谷港での配車が廃止となった現状がある中で、実施内容は、定期観光的なタクシーの導入など、新たな需要の掘り起こし、新たな利用者サービス提供によるタクシー輸送の可能性についても検討します。

また、新たな移動手段の確保に関するタクシー事業との連携及び活用について検討します。

次に、5ページ、【事業5】交通結節点の機能強化です。

事業内容は、乗り場での行き先表示の情報提供の改善、各交通機関の乗継案内、待合空間の整備、また、需要の多い路線・ダイヤ限定ですが、乗継時間や運賃負担などの検討です。

実施主体は、鉄道・フェリー・高速バス・路線バス事業者及び富津市で、趣旨は、各交通機関の乗り継ぎの利便性を向上させるため、運行ダイヤや乗降場所に関する情報発信、需要に応じた乗継時間の改善、待合空間の整備など、必要な整備内容について検討することです。

実施内容は、主に市内の各駅で、市内交通結節点における路線バスダイヤや乗降場所などを分かりやすくした乗継案内情報の掲示を、各交通機関のダイヤ改正にあわせて随時実施し、また、路線バスの再編事業とも整合を図り、重点的に乗継改善が必要な路線及びダイヤを検討するとともに、利便性を高める待合空間を整備していきたいと考えます。

次に、6ページとなります。【事業6-①】利用しやすい駅舎・車両（バス・タクシー）整備です。

事業内容は、JR青堀駅のバリアフリー化推進と青堀駅以外の5駅の利用しやすい駅舎の整備検討です。

実施主体は、鉄道事業者と富津市で、趣旨は、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づく「移動等円滑化に関する基本方針」に基づき、市内で唯一、1日平均利用者数3千人を超える青堀駅のバリアフリー化のため、整備内容の検討及び必要な調整を行うものです。

実施内容ですが、青堀駅のバリアフリー化につきましては、市もJRに対して事業費の一定割合を補助し、改札口とホームとの移動のためにエレベーターを設置することを検討しました。

昨年度、JRが概算工事費を積算したところ、軟弱な地盤による補強を含め、多額の費用が見込まれ、市の負担額も非常に大きいことから、市としては、実施については白紙化とさせていただいているところです。

しかしながら、ハード面だけでなく、ソフト面からも利用しやすい環境整備を検討するとともに、市内各駅の利用しやすい環境及びその整備について検討していきます。

	<p>次に、7ページ、【事業6-②】利用しやすい駅舎・車両（バス・タクシー）整備です。</p> <p>事業内容は、利用しやすいバス・タクシー車両の導入です。</p> <p>実施主体は、路線バス及びタクシー事業者で、趣旨は、高齢者、障がい者だけでなく、全ての人が利用しやすい、乗降の負担を軽減するための車両の導入を推進します。</p> <p>実施内容は、車両の導入について、路線バスの再編、地域特性に即した移動手段の導入に関する事業等との整合を図り、検討・随時導入します。</p> <p>また、ユニバーサルデザインタクシーの運転手が、乗降等の補助に関する知識や技術の習得をするための講習について、市が講習会場の提供をする等の連携をしていきたいと考えています。</p>
小泉会長	<p>次に、8ページ、【事業7】交通系ICカードの導入推進です。</p> <p>事業内容は、市域内を運行する交通機関の交通系ICカードの導入推進であります。</p> <p>実施主体は、路線バス事業者で、趣旨は、交通系ICカードの導入に向け、必要な事項、利活用及び普及について検討します。</p> <p>市内では、鉄道、フェリー及び高速バスはICカードを導入済みであり、市内路線バス8路線のうち、富津線とイオンモール富津線が導入済みです。</p> <p>実施内容は、他の路線へのICカードの活用及び普及促進策を検討します。</p> <p>ここまで、事業1から事業7までの、今年度実施予定の事業内容の説明をさせていただきましたので、一旦、説明を終わります。</p> <p>事務局の説明について、ご質疑・ご意見がございましたら、お願い致します。</p>
宮澤委員	<p>6ページのバリアフリーに関する事業の説明について、ソフト面からも利用しやすい環境整備を検討するとの話がありましたが、具体的な事業の実施計画はありますか。</p>
事務局	<p>具体的にはありません。円滑に移動していただくための工夫について、JRをはじめ関係者と協議していきたいと考えています。</p>
藤井委員	<p>7ページ、その他事業全般にも関連する内容ですが、富津市地域公共交通網形成計画では、5年間の計画期間の中で、目標数値を設定し、計画の達成状況を評価するとしています。</p> <p>計画の最終年度で評価するものと、毎年の整備によって評価が確認できるものがあり、それぞれの事業によって違うと思います。</p> <p>この場合に7ページですが、バス、タクシーの車両導入について、例えばタクシーについては、ユニバーサルデザインタクシーの導入台数</p>

	<p>2台以上を目標としています。これは5年間で2台以上導入で達成となります。</p> <p>2018年度事業計画では、スケジュールの表を見ると随時実施となっていますが、これは5年間の中で現在調整中の話なのか、2018年度の実業計画ですので、今年度具体的に検討していく内容があるのであれば、その内容が計画の中で見えるほうが良いと思います。</p> <p>結果として2022年に2台導入できていれば良い形になりますが、導入が早期であれば、連動してくる事業として、タクシー運転手の研修がセットで入ってくる。</p> <p>また、ユニバーサルデザインタクシーが導入された場合については、先ほどタクシーの幅の広い使い方として、観光というキーワードもありましたが、地方都市に行きますとタクシーの活用について、観光もちろんありますが、福祉的サポートを一部担うということもあります。</p> <p>その場合、介護タクシーと差別化をきちんとする必要がありますが、介護タクシーの場合、大体要介護2以上の人が8割以上利用している、そういったデータがあって、要支援1と2、要介護1の人は一般タクシーの利用率が高い。</p> <p>このような状況の中に、ユニバーサルデザインタクシーが活用されると、その利用率が変わってくることが考えられます。</p> <p>そうなってくると富津市の計画の推進にあたり、ユニバーサルデザインタクシーの導入時期によって、タクシー活用の場面に対する考え方も変わってくると思いますので、今年度の計画に記載しなかったとしても、タクシー事業者の方々と相談して、どの時期にこういったものを導入して具体的な計画が連動していくのかということ、単年度事業だけではなく、関連性の中でチェックできる体制を事務局には検討してほしいと思います。</p>
事務局	<p>ユニバーサルデザインタクシーの導入による影響について、お教えいただきありがとうございます。</p> <p>事業の実施にあたり事業者の皆さまと調整し検討していきます。</p>
奥瀬委員	<p>ユニバーサルデザインタクシーの導入にあたっては、千葉県、国から補助をいただいていることもあって、その補助の内容によって導入の動機付けになっているというのが、現在のタクシー事業者の実情です。</p> <p>そういったことを含めまして、藤井委員のご指摘のとおり、もう少し具体的な進捗プランといったものを事務局と調整しながら盛り込んでいきたいと思います。</p>
代田委員	<p>バスに関するバリアフリー対応車両については、2017年に天羽日東バスを日東交通が吸収合併しまして、現在は、天羽日東バスが使用していた車両をそのまま使っています。</p> <p>天羽日東バスの車両は、だいぶ老朽化しており、現在日東交通では木更津、富津に営業所があり、そちらの代替の時期が来た場合に、それま</p>

<p>青井委員</p>	<p>で使っていた車両を上総湊の営業所で使用する形に移行し、ワンステップ、ノンステップバスのバリアフリー対応車両を導入していくことを計画しています。</p> <p>時期については、2018年度は車両更新の計画はなく、2019年度以降の導入を考えています。</p> <p>警察の立場から発言します。</p> <p>資料4ページ、事業4のタクシーの利用促進ですが、警察では、高齢者の事故が多いということで、免許証の自主返納を勧めています。</p> <p>しかし、富津市の地区の中でも場所によって異なるかと思いますが、例えば富津警察署の周辺の湊地区では、商店がないということで、車がないと生活できないという人がたくさんいると思います。</p> <p>車がないと生活できない人に、免許証の返納を勧めても、その人の生活はどうするのかという問題が出てきますが、警察としては、交通事故につながることから運転技能がない人は免許を返納していただきたい、という立場でもあります。</p> <p>ですので、お金の問題もあるかとは思いますが、タクシーの利用促進については、是非進めていただきたいと思います。</p>
<p>奥瀬委員</p>	<p>免許返納を勧めるためタクシーの利用促進を、というご意見ですが、富津市という地域は、タクシー事業にとって非常に苦しい地域です。</p> <p>市北部については、ある程度の人口密集があることから、ある程度の営業が見込めるのですが、市南部についてはタクシーを利用する人が少ないので、結果として配車できる台数も限られてしまう。</p> <p>おそらく大貫から南の地域については、いずれのタクシー会社も配車しているタクシーについては、赤字となっているのが実状です。</p> <p>ただ、地域の公共交通を担っていることからギリギリの中で配車しているということもあり、いろいろな形で、免許返納だからということではなく、タクシーをご利用いただくことで、タクシーがまだその地域に踏み止まれる、ということは非常に大事なことです。是非とも利用促進はお願いしたい。</p> <p>タクシー事業者の営業実態は、利益率が2～4パーセント位となっていて、割引というのは非常に利用促進にはなるのですが、一方で一義的に見ると、その仕事自体が赤字仕事になってしまうというのが実態になっていますので、そのバランスをどうするか、赤字の事業を継続していくことはできませんし、民間企業であれば、継続すれば倒産してしまいます。</p> <p>そういったことを踏まえて、利用促進と赤字をどうやってバランスをとっていくのか、委員の皆さまとご議論、ご相談させていただければと思っております。</p>
<p>池田委員</p>	<p>大貫より南部では赤字というのは、回送距離が長いことが原因ということでしょうか。</p>

奥瀬委員	タクシーの利用するお客様が少ないことが原因です。
池田委員	市南部に、タクシーの拠点はあるということでしょうか。
奥瀬委員	<p>富津市で最も南に拠点を持つのは、大佐和タクシーで車両数は5両です。そのほか、富津市に営業所があるのは、青堀地区など市の北部に2社しかありません。</p> <p>富津市を含むタクシーの交通圏として南房交通圏というエリアでは410両位ありますが、富津市内に車庫、営業所があるのは3社で、合わせて大体30両位だったかと思います。</p> <p>一方、君津市は1社2両しかありませんが、隣接する木更津市から遠く離れていませんので、あまり時間がかけずに行って、営業ができるというのが実態です。</p> <p>回送距離というのも、事業4の中で触れてありますが、富津市で最も南に配車している上総湊駅には、木更津からかずさ交通のタクシーが行っていますが、片道25km、往復50kmかけて回送で行っています。50km回送で行くということは、ほとんど採算がとれないということになり、そういった中で、どのように維持していくのかということになります。</p>
小泉会長	よろしいでしょうか、他に意見等ないようですので、事務局は事業8から説明をお願いします。
事務局	<p>それでは、事業8から再開し、事業13まで説明します。</p> <p>資料9ページをお開きください。最初に【事業8】東京湾フェリーの利用促進です。</p> <p>事業内容は、割引サービス・イベントの開催とフェリーターミナルの改修検討です。</p> <p>事業主体は、フェリー事業者と富津市で、趣旨は、東京湾フェリーと市内交通機関との連携による周遊イベントの実施並びに富津市及び南房総地域における海の玄関口であります金谷ターミナルが築50年経過し、老朽化に伴う改修内容を検討するものです。</p> <p>現在では、「マザー牧場・鴨川シーワールドセット券」など、公共交通とのタイアップ商品を発売しており、また、東京湾フェリーから安房鴨川駅・亀田病院を結ぶ金谷線の平成30年4月ダイヤ改正により接続が改善され、「鴨川シーワールド・らくらくチケット」の利便性が向上するとともに、「道の駅保田小学校」のバス停が新設されました。</p> <p>今年度の実施内容は、東京湾フェリーを活用して市内を巡るコースを5コース程度作成し、パンフレットやチラシ及びWeb媒体で紹介していきます。</p> <p>また、金谷ターミナル改修につきましては、事業者が2022年春のリニューアルオープンを目指し、事業形態・事業構成を模索するとともに</p>

に、新たな市の交流の場として、国からの地域活性化の支援が受けられる「みなとオアシス制度」の活用可能性の検討を含めた、施設改修を検討する予定です。

次に、10 ページ【事業9】高速バスの利用促進です。

事業内容は、停留所、待合環境、駐車場等の整備と会員間での特定の自動車の共同使用のことをいうカーシェアリングなど二次交通の適用可能性の検討です。

実施主体は、富津市、高速バス事業者、カーシェアリング事業者で、首都圏とのアクセスにおける利便性が高い、高速バスの停留所等を整備するとともに、停留所との二次交通導入を検討します。

実施内容は、今年度末供用開始予定の(仮称)浅間山バスストップに係る高速バス停留所の整備及び運行に向けた高速バス事業者との調整を行い、また、二次交通手段の検討及び導入に関する調整をカーシェアリング事業者と行います。

次に、11 ページ【事業10】地域と連携した地域特性等に即した移動手段の導入です。

事業内容は、公共交通空白地域、又はこれに準ずる地域におけるコミュニティバス、乗合タクシー、デマンド型交通などの委託運行、及び自家用車有償運送の導入を検討します。

実施主体は、富津市、地域住民の方々、路線バス・タクシー事業者で、趣旨は、市や交通事業者が実施する公共交通網の再編とともに、地域住民の主体的な参画のもとで、その地域特性等に即した移動手段を検討する組織づくりを支援し、地域とともに移動手段を検討します。

検討にあたっては、自分たちの地域に必要な移動手段を「要望」するのではなく、市とともに、地域住民間で「話し合い、決める」ことを目指します。

実施内容は、地域住民の方々とともに、地域に適した移動手段を検討し、運行計画の調整を行い、また、新たに導入する移動手段の持続性を確保するための、継続や廃止などの運行基準の見直しに関する基準、及び費用の一部補助制度を創設するなど、人的、財政的な支援を行います。

次に、12 ページ【事業11】小・中学校の再配置に伴うスクールバスの有効活用です。

事業内容は、スクールバスの活用方法、混乗化、間合い利用、統合の検討であります。

実施主体は、富津市とスクールバス運行事業者で、趣旨は、2020年の小・中学校の再配置に向け、児童生徒を安心安全に輸送するためのスクールバス設置運行計画(案)を作成するものです。

2020年4月に、湊小学校、天神山小学校、竹岡小学校及び金谷小学校を統合し天羽小学校に、また、大貫中学校と佐貫中学校を統合して、

	<p>大佐和中学校に、天羽中学校と天羽東中学校を統合して、天羽中学校となる予定です。</p> <p>これを受けた実施内容は、児童生徒の人数、居住実態に合わせた必要台数、運行経路・ダイヤを検討し、また、スクールバス運行経路及びダイヤと、路線バスとの重複運行の調整、そして有効活用を踏まえた路線バス再編に関する検討を行います。</p> <p>次に、13 ページ【事業 12】運行情報提供の充実です。</p> <p>事業内容は、公共交通総合マップの作成・配布です。</p> <p>実施主体は、富津市と交通事業者で、趣旨は、市民や来訪者へ市内の地域公共交通の運行内容をわかりやすく伝え、利用促進を図ります。</p> <p>実施内容は、市内の公共交通機関を網羅し、公共交通の利用に慣れていない人にわかりやすい「公共交通総合マップ」を作成し、配布します。掲載内容の例として、主要な各交通機関の乗り換えモデル、主要な交通結節点の乗り場案内を考えています。</p> <p>次に、14 ページ【事業 13】公共交通への移動手段の転換に関する負担軽減です。</p> <p>事業内容は、高齢者運転免許自主返納者への優遇措置に対する周知PRと市独自の自主運転免許返納者への負担軽減の検討です。</p> <p>実施主体は、富津市、交通事業者、富津警察署で、趣旨は、自家用車で移動している人が公共交通機関で移動する生活に転換することは、これまでの日常生活とは大きな変化であることから、対象高齢者からの公共交通に関する相談を受け、効率的な利用の提案や免許返納者向けの優遇措置をPRし、心理的な負担を軽減するものです。</p> <p>実施内容は、個々の生活実態に応じた効率的な利用方法を記載する「My時刻表」の作成を行い、また、現在実施している免許返納者向けの日東交通の路線バス運賃が半額となる「ノーカー・サポート優待」などの各種優遇措置を積極的にPRするとともに、市内の個々の事業者が実施している、生活を支援する買物配達サービスや医療機関の送迎サービスなどの地域が持っている資源の実施状況を取りまとめ、広く周知していきます。</p> <p>事業 8 から事業 13 まで、今年度実施予定の事業内容を説明しましたので、一旦、説明を終わります。</p> <p>事業 8 から事業 13 までの事務局の説明について、ご質疑・ご意見がございましたら、お願いします。</p> <p>2 つあります。</p> <p>1 つ目は、【事業 11】小・中学校の再配置に伴うスクールバスの有効活用について、わからないことがあるので教えてほしいことがあります。</p>
小泉会長	
藤井委員	

	<p>「スクールバス」という名称が付くと一般利用との混乗が難しいというのが、全国の自治体の特徴ですが、富津市では、既に混乗利用しているところが一部ある。</p> <p>この混乗しているスクールバスは、元々路線バスとして運用していて、子ども達、児童生徒のための福祉化としてスクールバスを適用していったのか、あるいは路線バスがない中でスクールバスを運行、これは文部科学省のベースの事業になるので、スクールバスとして運用していたものに、一般利用の声を募ってそれを認めていったのか。その経緯がわかれば伺いたい。</p> <p>その理由は、今後路線バスとの競合、重複などの検討といった説明がありました。富津市の地域性として、子ども達の搬送と市民の移動の混乗といった考え方が、地域の中で「合理的にオーケーである」という下地があるという地域であれば、今後の調整も可能と考えますので、その経緯について教えていただきたい。</p>
事務局	<p>現在戸面原ダムから上総湊駅まで運行している路線バスがありますが、戸面原ダムから環小学校まで運行しているスクールバスもあります。路線バスの一部の経路とスクールバスの経路は重複しているため、スクールバスの運行に伴い、戸面原ダムから環小学校までの重複区間はスクールバスの市民混乗を実施し、路線バスを一部経路短縮したということがあります。</p>
藤井委員	<p>そのときに、市民としては、特にPTAの方達ですが、スクールバスは子ども達のためであるという議論を行いますので、子ども達のために獲得したスクールバスであれば、一般の方が乗車されるのは困るといった声が、都市部では多い。そういった声は富津市には起きなかったという理解で良いでしょうか。</p>
事務局	<p>反対意見があったかまでは把握していませんが、戸面原ダム線の経路短縮とスクールバスの市民混乗を実施する際には、地域の方に説明に行っているという記録があることは把握しています。</p> <p>このため市の考えのみで市民混乗を決定したのではなく、実施にあたっては、地域の方に説明をしています。</p>
藤井委員	<p>わかりました。</p> <p>2点目ですが、11ページの事業10ですが、この中でいろいろな事業を検討するといったときに、基準を今年度検討していきます、どのような形で補助事業ができるのか、あるいは継続、廃止を含めた基準を作り込むか、といった今年度非常に大事な状況だと思いますが、こういったものを作成した後の話ですが、作成した基準で富津市は計画を推進するというを市民開示する仕組みを考えているのか。単にホームページに掲載して終わりなのか。</p>

	<p>地域ごとに色々な交通手段を検討できる枠組みを考えますということ を市が提案していくということだと思いますが、地域にあった形 のものを住民協働で住民の皆さんと一緒に考えて、といった市民 ワークショップなど、これから色々なことが検討できるという機運を 住民の方々に持っていただくことも重要であると考えます。</p> <p>その点で、作成して市のホームページに掲載して満足するのでは なく、地域の方たちに制度をどうやったら活用していただけるのかとい ったものを、例えば簡単なリーフレットでも良いと思いますが、町内会 に協力いただいて広めていくなど、そういったアプローチを基準がで きた年度に実施していただくことをお願いしたい。</p>
青井委員	<p>事業 13 についての質問です。</p> <p>高齢者の自主免許返納によって、高齢者の交通事故を未然に防ぎ、安 全な交通環境をつくるという意味の制度ですが、同時に買物ができな い地域に住む人達の生活を守るということも我々の義務であると思 います。その場合に買物配達サービスという言葉が記載されていますが、 どのような業者がいるのでしょうか。また、それは高齢者でも注文でき る仕組みになっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>現在まとめているところですので、一覧を示すことができませんが、 一例をあげるとセブンイレブンが実施している配送サービスなどがあ り、他にも市内で配送や店舗等への送迎を実施しているところがあり ますので、そういったサービスがあるということを市民に伝えること も重要と考えています。</p>
青井委員	<p>高齢者の方達にも、インターネットで買物できる人もいれば、できな い人もいます。インターネットで買物できない人にインターネット利 用が前提になっているサービスを伝えても利用できませんので、そう いった人も利用できるサービスがあるのかという視点も必要と思 います。</p>
事務局	<p>高齢者支援を担当する部署として、介護福祉課があり、企画課と介護 福祉課で高齢者向けの事業を検討しているところですが、先に説明 しましたとおり、地域資源、買物配送や送迎のサービスを実施している 事業者がある。このような資源を一覧化し、地域の皆さんに広めてい きたいと考えています。</p>
成田委員	<p>10 ページ事業 9 高速バスの利用促進についての質問です。</p> <p>スケジュールの中で、君津～東京線高速バス待機場所不足対策に係 る検討及び調整が年間を通して実施になってはいますが、バスストップ は 2018 年度中の供用開始となっています。</p> <p>この待機場所の確保の緊急度、バスストップの供用開始に支障がな いのか教えていただきたい。</p>

事務局	<p>もう1つ、二次交通の導入という事業のうち、カーシェアリング事業者など、と記載されていますが、この「など」の中に路線バスやタクシーの事業者が含まれるのかを確認させていただきたい。</p> <p>富津市に関する高速バスは、市の北部で発着するものと南部で発着するものがあります。</p> <p>このうち、事業計画に記載している待機場所の不足に関する事項は市北部のことで、2018年度中の供用開始を目指している（仮称）浅間山バスストップは市南部であり、待機場所不足の事項とは別の場所です。</p> <p>待機場所不足については、昨年度実施しましたバス事業者へのシェアリングで市北部発着の高速バスの待機場所が青堀駅だけでなく、君津駅でも不足があるということを聞いています。</p>
成田委員	<p>市北部の待機場所の問題は、浅間山バスストップの供用開始に支障はないという理解で良いでしょうか。</p>
事務局	<p>支障ありません。</p> <p>また、2点目の二次交通の導入については、浅間山バスストップとの市民と来訪者の移動手段確保のため、カーシェアリングやタクシーなど広く検討していくこととしています。</p> <p>昨年度の調査では、市民の浅間山バスストップまでの移動については、自家用車と家族送迎による利用意向が高く、新規バス路線の運行は厳しいという結果がでています。</p>
成田委員	<p>それでは、カーシェアリング事業者などの、この「など」の中には、計画を策定した時点で固定できないことから広く記載している、カーシェアリング以外の移動手段も可能性があるということで良いでしょうか。</p>
事務局	<p>カーシェアリングによる移動手段の確保のほか、広く検討していきます。</p>
小泉会長	<p>よろしいでしょうか、他に意見等ないようですので、事務局は引き続き説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、事業14から最後の事業16まで説明します。</p> <p>資料の15ページをお開きください。【事業14】商業施設・観光施設等との連携サービスの導入です。</p> <p>事業内容は、割引サービス・企画切符等の導入検討と、おでかけモデルプランの作成です。</p>

実施主体は、路線バス事業者・企業、観光協会、富津市で、趣旨は、公共交通の維持確保のためには、利用者の存在が不可欠であることから、公共交通の利用を促し、価値を付加するサービスを検討します。

また、市内公共交通機関は、便数が通勤通学時間帯を除き、1時間に1便以下であり、観光客などの利用者は、事前に乗継等の確認が必要であり、煩わしいことから、観光施設等を巡るための、スムーズな乗り換え等に関するモデルプランを作成することで、利用に関する抵抗を軽減するものです。

実施内容は、網形成計画策定時のアンケート等から、市民の利用意向の高い施設、観光来訪者の多い施設等との連携で、例えば、東京湾フェリー、イオンモール富津、潮干狩りを実施している漁業協同組合、ジャンププール等を連携した企画乗車券など検討します。

また、市内の公共交通を利用し、観光名所を巡る「おでかけモデルプラン」を作成したいと考えます。作成にあたっては、市と観光協会で作成するほかにも、公募によるプランの募集を検討します。

次に、16 ページ、【事業 15-①】市の公共交通の現状に対する理解を深める取組の実施です。

1つ目の事業内容は、小・中学生、高齢者を対象とした路線バスの乗り方教室を開催するものです。

事業主体は、富津市と路線バス事業者と地域の方々と、趣旨は、児童生徒が、バスの乗降方法、乗車中のマナー、バスの死角などの実際のバス車両を用いた学習、及び市の公共交通の基本的な内容を学習し、公共交通の大切さを理解し、自ら移動することができる力を身につけてもらうものです。

実施内容は、10月に竹岡小学校の児童43名に、路線バスの実車を用いて、バスの乗車体験等を行うとともに、市の公共交通に関する基本的な内容の学習教室を行います。

次に、17 ページ、【事業 15-②】市の公共交通の現状に対する理解を深める取組の2つ目の事業内容は、ワークショップの開催です。

実施主体は、富津市と地域の方々と、趣旨は、地域住民が、自らの地域にとって必要な移動手段に関する理解を深めるために、「説明を聞く」、「要望をする」だけでなく、地域住民同士で意見を出し合っただけ、認識をお互いに共有するためのワークショップを開催していきます。

実施内容は、【事業 10】の「地域主体による地域特性に即した移動手段の確保」に関する地域における検討を進める中で、ワークショップ形式による地域に必要な公共交通のあり方を考えるものです。

次に、18 ページ、【事業 15-③】市の公共交通の現状に対する理解を深める取組の3つ目の事業内容は、公共交通ニュースの発行です。

	<p>実施主体は、富津市と交通事業者で、趣旨は、運行、イベント情報や各種制度、実態などの公共交通に関する情報について、知識を深め、公共交通に関する現状に関する認識の共有化を図ろうとするものです。</p> <p>実施内容は、各種公共交通に関する情報を掲載した公共交通ニュースを、概ね2か月に1度程度、区長回覧や市ホームページにより、情報発信していきます。</p> <p>最後に、19ページ、【事業16】運転手の確保策の実施です。</p> <p>事業内容は、バス・タクシー運転手に特化した就職イベントの開催や、君津地区4市とハローワークと連携したホームページや広報誌への掲載などです。</p> <p>実施主体は、路線バス・タクシー事業者と富津市で、趣旨は、現在運行している交通機関及び地域に即した移動手段の導入、見直しにあたりまして、市民及び来訪者を運送する運転手の確保策を実施するものです。</p> <p>実施内容は、運転手の確保に非常に苦慮していることから、募集情報の発信、就職イベント等を実施します。実施にあたり、交通事業者が実施する運転手募集のほか、君津地区等の広域での連携やバス・タクシー等の他業種間の連携の方策についても検討したいと思います。</p> <p>以上で、事業13から事業16までの、今年度実施予定の事業内容の説明を終わります。</p>
小泉会長	<p>事務局の説明について、ご質疑・ご意見がございましたら、お願い致します。</p>
藤井委員	<p>各事業というよりは、全般に関する意見ですので事務局はできるだけ汲み取っていただければと思いますが、先ほど奥瀬委員からタクシー事業についても、売り上げベースでは非常に厳しい状況にあるといった中で、割引のことを考える。確かに公共交通を考えるうえで、割引サービスや連携サービスは1つの方策としては良いのですが、恒常的につながるかという点と難しい。</p> <p>そういった中では、施設ごとに地域のサポーターになり得るか見届けないと単年度型で終わってしまうような協力、連携体制で行くと5年間の事業計画につながらないということになりますので、見極めが必要と考えます。</p> <p>観光客向けには、観光パッケージが有り得るかと思いますが、市民利用を促すための日々の割引、連携サービスが本当に地域の中で成り立つのか。</p> <p>いろんな地方都市に行くと、「公共交通は誰がやるのか」というと「行政がやるべきだ」という意識が非常に強い地域があります。こういった</p>

地域では、「公共交通は利用しないと無くなる」といった意識が全くない地域になります。

公共交通はあったら良いという声ばかりでは、公共交通は維持できないということを理解していただくことも大事です。

実施事業にある市の公共交通の現状に対する理解を深める取組を計画に記載したということは、そういった思いがあるということだと思います。

ネガティブキャンペーンではありませんが、実際に利用されていないものがどうやって維持されているのかということを知っていただいて、その中で役割分担を市民としても担えるのかということ、常に検討できる仕組みとしての情報提供をしていただくと良いと考えます。

というのも、バスについて子ども達に乗り方など教育したとしても、それが継続しないのは、子ども達の保護者が、子ども達の日常の移動に車を使ってしまう。

例えば筑波大学の研究成果では、小学生までの間で、自家用車で普段の移動をしていた子どもと公共交通を利用していた子どもを比較すると、その子どもが成人以上になっていったときの協調性といったものに有意な差がある、といった研究成果もあります。

それは、公共交通を使う場であるところで協調性を担保できない子ども達が、ある意味自家用車搬送をしているご家庭で非常に多くなるという、社会学的な評価もされています。

そういった面では、単に子ども達にバスに乗る仕組みだけを教えるのではなくて、家庭学習ということでは、先ほどからPTAというキーワードも言っていますが、保護者の方にもその思いを知っていただくということを継続していかないと、公共交通の維持は成り立たない。

町内会の回覧は企画しているようですが、できれば小学校のPTA、子ども達の保護者の方々に対して、子ども達の移動について公共交通の中でどのように考えるのか情報提供、発信することも合わせて考えると良いと思います。

特に、小中学生というキーワードがあるのであればその子ども達を支えるのは保護者の方ということで、保護者の方の意識も改革してほしいと思います。

例えば、荒川区では、小学生に自転車免許証というものを発行して安全な自転車の乗り方を講習しています。しかし、中学生、高校生になるとそれがとけてしまう。それが子ども達の問題かという保護者の方達が先頭をきってルールを履き違えた自転車の乗り方をし、子ども達も免許を持っていたときは良いが、免許をはずしたとたん安全な自転車の乗り方をしなくなってしまうことがあります。

耳の痛い話かもしれませんが、保護者の方に向けた教育も連動できるよう、保護者の方に向けた情報発信も重要であると考えます。

成田委員	<p>事業 16 の運転手の確保策の実施ですが、年間スケジュールでは、就職イベント開催は随時実施と記載していますが、千葉県バス協会にも、イベント開催に関する問い合わせがくるかもしれませんので、実施の前には、チラシが出来ましたら千葉県バス協会に提供いただければ共有したいと思いますので、情報提供をお願いします。</p>
小泉会長	<p>これは、富津市単独で実施するというものでしょうか。</p>
事務局	<p>イベントの開催については、市が単独で実施するというのは難しいと考えていますので、バス、タクシーの事業者や近隣 4 市で連携し実施していきたいと考えています。また、実施にあたっては、積極的に PR して行きたいと考えています。</p>
寺元委員	<p>事業 16 ですが、バス、タクシーに限らず、フェリーも乗組員不足の状態にありますので、この事業の中に、是非フェリーも含んでいただきたいと思います。</p> <p>実際に日本全体で乗組員が不足している危機的状況にありますので、全日本海員組合から支援をいただいて、7月にフェリーを一艘貸しきって、小中学生に海の仕事を体感してもらうというイベントがあります。</p> <p>是非事業 16 にフェリーも含めていただければと思います。</p> <p>余談ですが、先日、東京、神奈川県内のバス事業者の社長と話す機会がありまして、やはりバスの運転手を確保するのが困難だということで、18歳で雇用して、3年間ほど事務職などに従事させて、それから二種免許を取らせて運転手として育成するという話がありました。</p> <p>二種免許を持った人を採用することが難しい、そこまで苦戦しているということでした。</p>
小泉会長	<p>バス運転手についての話でしたが、タクシーについてはいかがでしょうか。</p>
奥瀬委員	<p>タクシーについては、現在の労働環境の中で、人手不足が深刻である業種として厚生労働省から 4 業種指定されている業種がありまして、そのうちの 1 つが運輸業で、そのほかは警備、介護、建設業です。</p> <p>ですので、木更津のハローワークにはいませんが、千葉のハローワークには、専門のスタッフがいて、一生懸命やっていますので、現状を申し上げますと、千葉県ではタクシー運転手は登録制度になっていて、運転手の平均年齢は 61 歳か 62 歳位です。</p> <p>寺元委員から話があったとおり、タクシー事業者もほとんどの事業者が一種免許しか持っていない人も採用し、会社が費用を負担して二種免許を取得させています。</p> <p>東京のタクシー事業者や私どもの会社でも行っていますが、入社奨励金や定着支援金という形で 30 万円とか 40 万円といったお金を払っ</p>

	<p>て入社してもらおう。バス事業者も同様だと思いますが、それが更に事業者の負担になっています。</p> <p>このような人手不足が、現在の社会情勢では、改善の兆しが全く見えていない状況です。</p> <p>千葉県の有効求人倍率が 1.33 くらいだったかと思いますが、このような状況でも、千葉市では事業者が毎年 1 社ずつ人手不足により倒産している状況ですので、行政にも協力いただき、就職イベントを実施していただくことで、仕事そのものに対する理解を深めていただくということは、非常に大事なことですし、1 社だけでは中々できない、特にタクシー保有台数が 5 台、10 台の中小の事業所にとっては、非常にありがたいお話だと思います。</p> <p>地域の公共交通を担う、運転手を継続的に確保していくためには、継続的に事業に取り組む必要があると考えています。</p>
代田委員	<p>バスの乗務員も、日東交通だけでなく、全国的に人手不足の状況で、奥瀬委員の話のとおり、日東交通でも、運転手の養成制度として普通免許しか持っていない人に会社が費用を負担して、大型二種免許を取得させています。今年は 6 名来ていまして、これだけで 300 万円の費用を負担しています。</p> <p>昨年度 10 名採用しましたが、10 名退社して状況は変わっていません。</p> <p>新しいバス路線や便を走らせようとしても運転手がいなければ、バスを走らせることはできませんので、運転手を確保するために、様々な取組を実施していますが、大変厳しい状況です。</p> <p>例えば、富津市川名にあります、富津営業所の空き地を利用して、バス運転の体験をしてもらうことを、日東交通のホームページに掲載しています。興味がある方は実際にバスを運転することができ、一般的な自動車との違いを体験できるといった取組を行っています。</p>
成田委員	<p>事業 15 の②ワークショップと③公共交通ニュースについて、事業として別ページになっていますが、ワークショップで公共交通に関する意識を高める情報交換がある中で、そのワークショップで出てきた意見等の内容が、公共交通ニュースで「こういった意見がありました」と情報発信するなど、関連付けながら実施していくのか伺います。</p>
事務局	<p>ワークショップの内容や各種事業に関連する内容については、公共交通ニュースに掲載して情報発信していきたいと考えています。</p>
寺元委員	<p>15 ページの事業 14 の中におでかけモデルプランがあり、これは、観光来訪者に向けたプランですが、昨年来から南房総地域の 4 市 1 町の事業として既に実施していまして、昨年は東京湾フェリーで市内に入り、浜金谷から上総湊まで電車で移動、その後竹岡まで行って電車で帰ってくるという事業でした。</p>

	<p>今年、今年6月3日に、富津ウォークと題しまして、浜金谷から青堀まで電車で移動、青堀から富津公園まで路線バスで移動、といった形で市の商工観光課と実施しました。</p> <p>富津公園で地元食材のお弁当を食べて、その後、大貫まで歩くといった行程でした。</p> <p>参加者のほとんどが対岸の横須賀市がメインで、特に横須賀中央のあたりに住んでいる方は、対岸の富津を良く見ている、富津市に行ってみようというポテンシャルがあって、来てみたらこんなに良いところだったと感じていました。</p> <p>何故公共交通を利用したかといいますと、バスに関する法改正の関係で貸切バスの利用に関する費用がとて大きくなったということがありまして、当社では、旅行業も行っている関係で、今後の旅行プランについては、公共交通を使った観光を目指していこうと考えました。</p> <p>6月3日は50人くらいの参加がありましたが、評判はとても良かったです。私自身もプランを組んでいて、こういうことをすれば、いろんなポイントが面で、線で繋がると思いましたので、今後も継続して実施していきたいと考えています。</p>
小泉会長	<p>ありがとうございます。他にご質問等ありますか。</p> <p>ご質疑等、無いようですので、議題の「富津市地域公共交通網形成計画に係る2018年度事業計画(案)について」、決をとりたいと思います。</p> <p>2018年度事業計画(案)について、原案のとおりとすることに、賛成の方は、挙手をお願いします。</p> <p>(挙手全員)</p>
小泉会長	<p>ありがとうございます。挙手全員です。</p> <p>本日の議題は賛成全員で可決されましたので、2018年度事業計画(案)については、(案)がとれ、2018年度事業計画となりましたので、計画に基づき事業を着実に実施してまいりたいと思います。</p> <p>以上で、本日の議事は終了です。</p> <p>4 その他</p> <p>その他として、委員の皆様から、何かありますか。</p> <p>ないようですので事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>本日はありがとうございました。</p> <p>なお、次回会議は、12月下旬又は1月中旬の開催を予定しております。後日、日程をお知らせいたしますので出席をお願いします。</p>

また、本会議で審議する案件等が生じた場合には、臨時に開催させていただきますので、委員の皆様も、本会議で審議が必要な案件がございましたら、事務局に連絡くださるようお願いいたします。
本日は、お疲れ様でございました。

5 閉会

ありがとうございました。以上で会議を閉会とします。

(終了時刻 午後 16 時 35 分)

以上